

学校自己評価報告書
令和元年度（2019年度）

令和2年（2020年）6月

学校法人電波学園

あいち造形デザイン専門学校 専門課程

学校評価委員会

委員長	鈴木	茂樹	(校長)
副委員長	野村	成幸	(専門課程部長)
	吉田	信治	(専門課程科長)
委員	日笠	保	(参与)
	神谷	公司	(事務長)
	海老	修臣	(教務担当)
	瀧田	龍晃	(就職担当)
	加藤	成樹	(校務担当)

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標	P 2
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 3
	(1) 教育理念・目標	P 3
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5、6
	(4) 学修成果	P 7
	(5) 学生支援	P 8、9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 14
	(11) 国際交流	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16、17

あいち造形デザイン専門学校 専門課程

I 学校の現況

- (1) 学校名 あいち造形デザイン専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池4-13-12
- (3) 沿革
- 昭和58年4月 名古屋デザイン専門学校を開校
- 平成16年4月 名古屋デザイン専門学校を瑞穂区堀田から千種区今池に校舎新築移転
- 平成17年4月 名古屋デザイン専門学校からあいち造形デザイン専門学校に校名を変更
- (4) 学科の構成 文化教養専門課程
- グラフィックデザイン科
- 企画デザイン科
- イラストレーション科
- まんが科
- 造形デザイン科
- 研究科
- (5) 生徒数および教職員数
- 生徒総数：382名
- 教諭数：専任16名 講師：31名 事務職員：4名
- (6) 施設の概要
- 1号館
- 地上8階 地下1階
- 多目的ホール 普通教室 アトリエ
- パソコン室 (Windows室、Macintosh室)
- 学生ホール
- 2号館
- 地上4階 屋上グラウンド デジタルプレゼンルーム
- 普通教室 金工室 工作工芸室
- パソコン室 (Windows室、Macintosh室)
- 学生ホール

Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校運営は、学校組織に基づいた各部署間の取り組みや連動による組織的な成果を調査し、問題点を明確にするとともに今後の方針や改善案を検討する。
- ・デザイン力、人間力の向上を図る。
- ・チュートリアル会議を実施し、教職員間で学生個々の情報、クラスの課題を共有する。
- ・似顔絵・産学・商学連携の更なる充実と円滑な運営を図り、社会貢献として取り組む。
- ・「ありがとう」と言われる学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

Ⅲ 教育目標

1. 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」としており、これを実現するため社会人としてふさわしい資質と社会に役立つ技術をもった人材を育成する。
2. 常に社会に対する最終教育機関に値する使命と責任を自覚し、周囲から愛される人、信頼される人、尊敬される人としての素質と、気風を培うため、健全中正な社会観、人生観を保持する人間教育を実施する。
3. 実力は努力から生まれることを教育指導の根幹として学生一人ひとりのニーズを満足させるとともに、クオリティの高いデザイナーを育成する。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	③	2	1
○各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応 する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 学校の教育理念は学生、保護者、関係業界に周知しているが、認知度については十分に浸透しているとは言い切れず、今後も周知、理解を得る必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ ホームページや教育懇談会、校友会等を通じて、理念・目的・人材育成像・特色・将来構想等の啓発を図る。また、教育懇談会では学校アンケートを実施し、認知度、内容等を確認、検討して、今後の改善に反映させていく。
- ・ 関係業界については、企業訪問や求人依頼時、産学連携など時々に合わせて、具体的な活動内容、活動計画などを周知していく。

③ 特記事項

- ・ 各学科には「教育目標」「カリキュラム」及び「各科目の講義概要」があり、これらは各学科担当責任者と教務が連携して課題内容、授業方法の見直しを行い、各業界に適した構成・内容になるようにしている。専門分野の科目のみに偏ることなく、一般教養やビジネスマナー等の就職に対応した科目も組み込んでいく。また、業界の第一線で活躍するプロをスーパーアドバイザー（特別講師）として招き、授業の中でより実践的な学習ができるようにしている。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

教職員の業務スケジュール管理の一元化や、教務サーバー上において職務分掌と連動した各業務データの管理については、現在一定の規定がないため、その使用は担当者によって異なり、必ずしも効率よく運用できているとは言えない。

② 今後の改善方策

保管するデータの種類、管理、使用可能データの開示とデータ自体のセキュリティを含めた利用方法等、情報システムの管理、利用規定を明確化、明文化していく。

③ 特記事項

- ・ 組織図・職務分掌によって業務内容・範囲の基本が示されており、各事案の立案や報告は主管部署の責任において、定められたフォーマットで文書化されている。それらは、校長・理事長の承認を得て確定事項となる。また、特に重要な案件や、新規案件、大幅な変更があった事項等は、事前に校長・理事長に具申し、事業計画として立案した上で、「理事会」の承認の上、教職員に周知されている。
- ・ 情報システムには、教務管理システム・学校経理システム・給与会計システムの3系統があり、それぞれのシステムはセキュリティ上の要請から独立したものとなっている。教務管理システムは、必要に応じて汎用アプリケーションで加工可能となっているため、業務が効率的に運用できる。今後もシステムの改善を行い、教務管理、就職管理、広報管理などとも連携が取れるシステムの構築を計画していく。

あいち造形デザイン専門学校 専門課程

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 産学連携授業において、実技、実習は体系的に位置づけられている。本校ではインターンシップは就職を前提とした企業で行うことが多く、必ずしも職業教育としての位置付けとはなっていない。今後は職業教育という点も考え、実施できるよう学内で検討していく。
- ・ 専門分野の指導力向上のため、教員は関連分野における高い知識・技能を修得しなければならないが、修得する具体的な方法等は、教員間での技術、知識交換や各教員の個人的な取り組みに頼る面が大きい。
- ・ 学校法人が主催する研修を実施しているが、研修の各講座には定員があるため、講座によっては、希望する必要な研修を受講できていないことがある。

② 今後の改善方策

- ・ シラバスにおいて、具体的な内容を明記し、授業の中で反映されるように実施していく。
- ・ 関連分野との連携による教育課程編成委員会において、分科会を積極的に運営する。各学科の教員と意見交換を深め、より専門的・実践的なカリキュラムを実現していく。
- ・ インターンシップでの学外授業等の実施について、教務、就職担当者と協力して検討し計画していく。
- ・ 非常勤講師については、年度初めに過去一年間の職務実績の提出を義務付けており、専門能力の判断をしている。学習指導については、教務責任者・学科責任者が非常勤講師との打ち合わせを適宜行い、情報の共有・指導方法の改善等に取り組んでいる。
常勤教員に対しては、各学科責任者の指導のもと、科目内容、授業運営、指導方法等、専門教育に関する打ち合わせ、各教員間の情報共有を必要に応じて行い、教員の資質向上を図っていく。
- ・ 学園の研修だけでなく、授業内容の充実、学習指導・就職指導の向上を目指し、本校独自の専門教育に関する研修を計画していく。

③ 特記事項

- ・ 実践的な職業教育においては、スーパーアドバイザー（特別講師）による特別授業、企業と連携した産学連携等のプログラムを積極的に採り入れ、より専門的・実践的な技術等を学ぶことができるカリキュラムを実施している。具体的には、特別授業では最先端の知識技術を、産学連携では企業の担当者による授業ガイダンス、本校の実技担当教員によるコンセプトワークから作品完成までのきめ細かい制作指導、作品完成後の企業に対しての学生のプレゼンテーションなど、キャリア教育の向上を目指し、学生の職業意識やコミュニケーション能力を高めるような指導に力を入れている。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
○退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 資格取得の向上については、色彩検定を主たる資格目標として推奨している。関連する色彩学の講義内で対策も兼ねた指導を行っているため、一定数が受験をしている。レタリング検定においては、デザイン系高校の出身者の一部で受験を希望する者がいるため、担当教員が適宜指導を行っているが受験者は少ない。
- ・ 卒業生の動向が把握できる組織として校友会があるが、全て把握できる訳ではなく限定的である。現実的には各担任が卒業生と連絡を取り、そこから情報を得る場合が多い。そのため活躍や評価について十分に掌握はできているとは言えず、全体的な実態を把握する組織体制の整備が必要である。

② 今後の改善方策

- ・ 色彩検定は、資格目標として推奨しているが2級・3級とも合格者の割合が高くないため、補習授業を実施予定。またレタリング検定については、コンピュータ全盛の社会背景や受験者も少ないため、今後は取り扱わないことを含めて検討したい。
- ・ 校友会の活動を活発にしていくとともに、卒業生の動向を把握できる SNS などの通信ツールを活用して情報交換が出来るよう計画を立てて行きたい。

③ 特記事項

- ・ 学生の就職活動支援のため、担任による個別面談や学生に合わせた個人指導を強化している。また、会話力や人間関係に自信の無い学生に対してコミュニケーショントレーニング講座を選択授業に設定し学生をバックアップする。
- ・ 平成28年9月から、卒業生から成る役員のもとで運営されるクリエイターの互助団体「あいちクリエイターズアソシエーション (以下 ACA)」が発足され、卒業生へのさらなるサービスの向上を目指し、その運営に協力している。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	4	3	②	1

① 課題

- ・ 学生の健康管理を担う組織は十分に構築されていないが、健康管理としては毎年度 1 回、健康診断を実施している。その診断結果については、管理監督者が全体を把握しつつ、担任および関係教員が情報を共有、協力しながら学生の健康面の指導を行っている。
- ・ 卒業生への支援体制として校友会を設置している。しかし、卒業生にはその活動内容がまだ十分には浸透していない。そのため校友会のサポート等の利用は僅かである。
- ・ クリエイティブ分野は、新卒か若手の業界経験者が求められがちであるため、社会人を経験して入学した者や大卒の者などは、年齢的条件によって、クリエイターとしての就職が難しくなる面がある。
- ・ 現在、業界と連携した再教育プログラムの実施はない。業界からの要望等については今後調査していきたい。

② 今後の改善方策

- ・ 学生の健康管理については、管理監督者、担任及び各部署と連携し管理できる組織体制を学校として整えていく必要がある。また、学園法人では学生・生徒相談センターを設置しており、メンタルヘルスについては臨床心理士も対応している。
- ・ 卒業生への支援体制として、校友会総会の実施、ホームページ、メルマガなどを通じて卒業生への情報発信を定期的に行っている。在校生においては、在学中から校友会の内容について周知し、校友会による表彰や各種支援等の取り組みに対する認知度を高められるようにしている。
- ・ 社会のニーズを踏まえた教育環境の整備においては、出口となる就職が大きな問題点となってくるため、関連業界の動向や要望を調査し、現状を把握して対応していく。
- ・ 再教育プログラムについては、組織的な取り組みとしては行っていないが、個々に卒業生の要望に応じ対応している。業界との連携についても、関連分野の動向などを調査し、業界との協力体制を構築していく。
- ・ 卒業生主体で組織されたデザイン分野の互助団体「ACA」では、年に1回クリエイティブセミナー(業界と連携)を実施しており、卒業生・在校生だけでなく、高校生や一般の方も参加することができる。また定期的に本校 1F ギャラリーリップルで作品展を実施している。卒業生へのデザイン活動支援体制の一つとして、さらに認知度を高め、多くの卒業生に参加してもらえるよう、本校もバックアップしている。

③ 特記事項

- ・ 企業の求人票を自宅等で閲覧可能な Web システムを導入し、求人に関する情報を公開している。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか	④	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修 等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 過去には本校独自のデザイン・美術関連での海外研修の実績があるが、現在では、費用などの経済的負担等、社会的状況の変化もあり中断している。

② 今後の改善方策

- ・ 学内における実習施設は年度ごと検討をしながら充実を図っている。本校独自の海外研修においては現在中断しているが、本学園国際交流室を通じて、海外研修の現状等の情報を得ながら、今後、実施可能かどうかを検討していく。

③ 特記事項

- ・ 施設・設備の運営管理は、それぞれ管理者を定め、日常の管理にあたっている。普通教室以外には、多目的ホール・コンピュータ室・実習室等の特別教室や学生ホールがあり、実習授業やクラブ活動等で有効活用している。視聴覚機器や情報機器は、定期的に機器のメンテナンスを行っている。今後も学習環境向上のためにコンピュータソフトウェアの更新やペンタブレットやPC等の機器の入替も計画的に行っていく。
- ・ 新型コロナウイルスが令和2年2月以降急速に拡散し、令和2年度の現時点でも収束していない状況である。本校独自または学園全体で、このような感染症対策について検討していく必要がある。また中長期的に、遠隔授業のための機器導入計画なども踏まえて、検討したい。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	③	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・入学者数が減少に転じたため、募集活動については再検討の必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・オープンキャンパスにおいて、在校生の協力を得て、参加者とのコミュニケーション面の改善を図り、入学生増に繋げていく。
- ・デザイン分野への希望者が減少している中、デザインのイメージアップを行う。学校パンフレットの表紙に「塗り絵コンテスト」を実施。小中学生にデザインの楽しさを知ってもらう活動を開始する。

③ 特記事項

- ・情報提供は、学校パンフレット、ホームページ、SNS等のツールでの広報及びオープンキャンパス、直接高校の進路指導に伺う高校訪問、進学ガイダンスなどが主なものである。
- ・学生募集用ツールについては、制作段階から教務責任者・各学科責任者が深く関わり、正確で適正な内容となるようにしている。最終段階では全教職員による内容確認を行っている。オープンキャンパスにおいても、教職員の紹介、学校説明はより分かりやすく伝えるため、プレゼンテーションをビジュアル化している。模擬授業内容は通常の授業の雰囲気や伝えられるような実習体験を設定している。施設設備の見学なども実施している。
- ・学納金は、毎年度事務担当者が収支状況を把握し、愛知県内の同種他校と比較検討、学納金案を本校事務局が立案している。案は学内で審議後、学園の評議員会並びに理事会で審議を経て決定している。魅力ある学校運営に努めて、費目と金額の適正化、今後の入学生数、教育環境の充実を含め、適切な金額となるよう設定している。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 財務基盤は、借入金等の負債はなく、資金流動性に富んでおり、賢固な基盤を有していると言える。昨年と比べ在籍数が若干減少したため、教育活動収入は減少することが予測される。また、人件費率が必ずしも良いとは言えない状況であるため、安定した入学生確保が重要となる。
- ・ 予算・収支計画は、学内において担当部署が立案する事業計画に基づいた特別予算、一般予算の算出及び学生生徒収容計画書により収入予定案を作成しており、一般予算については配布予算内での実施が可能となっているが、未計上の目的別予算もあり、より計画を詳細にしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 本校の安定した財務基盤について、中長期的な視点に立った学内組織の変更、教職員の構成の見直しの継続、事業内容を含めた見直しの実施、経費節減等の施策を実施し、徐々に人件費率を改善していく。
- ・ 予算・収支計画を有効的にするにあたり、定期的に予算委員会を実施し、教務（教員）も参加している。目的別予算を導入、課程別の予算・収支計画を作成することにより、教職員全体で経費節減も含め共通認識として取り組んでいく。

③ 特記事項

- ・ 会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。
- ・ 私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て、法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園のWebサイトにて毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・ 評価により明らかとなった改善すべき事項については、実現可能な事項から随時改善に取り組んでいる。教育環境設備の充実、学校運営業務の効率化などは着実に成果が上がっている。実施体制として、校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、各部署から委員を選出している。その中で出てきた問題点については学校全体で改善に取り組んでいる。
- ・ 学校評価に関する情報として学校自己評価報告書・学園財務状況・学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

- ・毎年、今池祭りでは地域からの要望に応え、参加協力しているが、活用機会は多くない。
- ・地域に対する公開講座・教育訓練については現在実施していない。

② 今後の改善方策

- ・地域、自治体、公共団体等からの要望があれば、積極的に実施していく。
- ・本校独自の公開講座等についての計画は現在のところないが、ACA が実施するクリエイターセミナー等に協力している。今後も ACA をバックアップし、公開講座についても積極的に計画、提案していく。

③ 特記事項

- ・企業や公共団体との「産学連携」を積極的に進めており、公共ポスター制作や地域振興のための装飾デザイン制作などを通して、社会貢献に対する意識についても高めている。
- ・全国の高校生を対象としたデザイン作品のコンテストを、学園主催で毎年実施しており、本校はその運営主体となっている。このコンテストを通して、デザイン教育機関としてデザイン・美術の普及・発展に貢献できるよう活動している。
- ・公共団体等からの依頼により、各種イベントや医療・福祉施設などでの似顔絵プレゼントを行っている。制作技術を身につけた意欲ある学生が、土日祝日などに活動しており、学校と教職員は全面的にこのボランティア活動を支援している。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
○学内で適切な体制が整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 留学生の受入れ・派遣については、本校独自で行っておらず、法人事務局国際交流室と協力して行っている。
- ・ 評価される取り組みとして、国内では学生の成果や活動はホームページやSNS、定期発行物を通じて知らせている。国外においては、現在、外国語訳のホームページをアップしていないため、広く知られ、評価されているとは言えない。

② 今後の改善方策

- ・ 外国語訳のホームページについては法人事務局国際交流室等と連携しながら検討していく。

③ 特記事項

- ・ 毎年、法人事務局国際交流室からの依頼を受け、韓国やインドネシア等からの短期留学生に対し、似顔絵プレゼントによる国際交流を行っており、学生同志が直接交流しあう大変有意義なイベントとなっている。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校の学校目標については、年度初頭に理事長・法人事務局職員・各校所属長・各校管理監督者が出席する学園合同会議において、学校目標、計画を昨年度の振り返りとともに発表し、その目標を達成するため全教職員が協力し合い取り組んでいる。

目標に対しての事業計画の遂行や学校評価の結果については、おおむね良好といえる。この結果の振り返りを踏まえて、次年度以降も目標達成のために積極的に取り組み、より良い学校を目指していく。

明確になった課題に対しては、速やかに改善できる対応策を計画し、より充実した教育環境を整えるとともに、さらなる教育の質的向上を図らなければならない。

学生や保護者、デザイン関係機関に対しては、本校の教育目標をより理解していただけるよう、本校の教育理念・目標を発信し、日々の教育活動の向上に努めていく。

教育の質的向上については、毎年度ごとにカリキュラムの見直しを行い、専門教育およびキャリア教育の充実を図っている。

また、ACAを継続的な卒業生支援の場の一つとしてとらえ、その運営に協力し、卒業生ネットワークの構築にも力を入れていく。

本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を掲げ、本学園スローガンである「ありがとう」といわれる学校づくりを目指している。そして、専門教育機関として、社会のニーズに合った人材を育成する責任を果たすべく、教職員はこれからも向上心と使命感を持って職務に取り組む。

次年度に向けては、下記項目に対して積極的に取り組んでいく。

- ・ 学校組織でのアイデンティティの確立
学校組織と職務分掌表（教務・校務・進路指導）の連動により、「役割」や「職責」を明確化し、遂行すべき目標や計画に対しての、職員の意識向上、行動の活性化を図る。
- ・ 管理監督者による授業参観と講評の実施
客観的な視点で授業を見学し、その所感を授業担当者にフィードバックすることで、専門学校における専門教育、キャリア教育の質的向上に取り組む。
- ・ 国際交流の取り組み
本学園の法人事務局国際交流室を通じて、今年度は韓国やインドネシア等からの短期留学生に対して似顔絵プレゼントや似顔絵講座などを実施した。次年度も積極的に協力し、国際交流の活動を広げていく。
- ・ 3年教育の取り組み
本校研究科は2年課程を卒業した学生を対象としており、さらに学習を深めたい学生が進学する。研究科を含めた3年教育の内容をより充実させ、専門教育やキャリア教育の質の向上に努める。
- ・ ACAの更なる支援
卒業生の作品発表、活躍、交流の場を提供するとともに、各教員のスキルアップのために積極的な入会・参加を促す。

あいち造形デザイン専門学校 専門課程

- ・ ドロップアウト減少のための取り組み

進級時の退学率が5%を超えないことを目標に、チュートリアル会議を行い、教員間で学生の情報の共有と的確な対応が速やかにできるよう、全教員が協力しあい日々の学生指導に努める。

以上